



TITLE:

# 工学部建築学教室図書室紹介

AUTHOR(S):

---

CITATION:

工学部建築学教室図書室紹介. 静脩 1966, 2(5): 6-6

ISSUE DATE:

1966-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36318>

RIGHT:



## 工学部 建築学教室図書室

工学部には各教室ごとに図書室があり、主にその教室の教官、学生に奉仕している。教室の歴史や実情等によりそれぞれ図書室の規模、施設、設備状態、職員数、また運営の仕方などもかなりちがっている。良い意味では、それぞれの独自性をいかして運営されているといえる。しかし、現実では必ずしもそういった面ばかりではない。たとえば、他教室の所属の図書を借り出すとき、それぞれの教室の貸出規程が異なるため非常に不便を生じたりしている。

一般に大学の中での図書館はその重要な任務とはうらはらに、ややもするとその任務を充分果し得ない種々の条件下にあって、教室の図書室では機構上の問題や経済上の問題等でますますその任務を遂行出来にくい実情にある。図書室としての悩みも多い。今回は工学部図書室の一つ、建築学教室の図書室を紹介しよう。

建築学教室図書室は電気総合館の北側、建築学教室本館の二階東角にあり、書庫面積約 155m<sup>2</sup> と整理事務室兼閲覧室約 30m<sup>2</sup> ほどの図書室である。

蔵書数は約3万、蔵書の内容は建築工学、その他工学関係図書、雑誌、美術、美術史、歴史等が主なものである。この図書室の特徴はやはりその蔵書の内容であろう。他の工学部の図書室とはちがって、総合的学問たる建築学の性格を反映し、美術、歴史等人文科学的な図書の全体に占める率が非常に高いことである。したがって文科系の教官や学生の利用もしばしばある。

利用者は建築学教室の教官、学生が主でその他学内、外の研究者、学生の利用も時々はある。しかし、何といっても教官の教授、研究活動のための利用が主であり、学生の



利用者に充分こたえられない傾向にある。

図書室の一番の悩みは、空間的な問題である。近年受入冊数が激増しており、数年前に書庫を増設したが、当時たてた10年先ぐらいの見透しも、すでに反古になってしまっている。閲覧室は整理事務室の一隅に新刊雑誌と数ヶの椅子と机をおいただけのものになってしまっており、閲覧にも整理事務にも支障をきたしている。しかし講座増設の折柄、教官室、研究室等諸施設の不足している現状では図書室の拡充は望めそうにない。現在、書庫が狭いので図書がどうしても教官室に置かれたままになる傾向にあり、利用上また図書の管理上、非常に困難な問題をかかえている。職員数は4人、本年より発足した第2学科の図書も一括して扱っている。2年前まで職員は1人であったため目録など不備な点も多いが、最近、今まで備えてなかった書名目録の作成に手をつけはじめ、利用者の便に供すため努力している。

### 世界医学図書雑誌展の開催

きたる2月23日(水)から25日(金)までの3日間、医学図書館3階で世界各国最新の医学書、医学雑誌約3千点が展示される。この図書展への出品国はアメリカ、イギリス、東西ドイツ、ソ連ほか23か国にわたり盛会が期待されている。

**訂正** 前号の記事に一部誤りがありましたので訂正するとともに関係者にお詫びいたします。  
2頁3行目漢籍6万部10万冊を漢籍6万部20万冊に訂正。

**あとがき** 新しい年がめぐってくるたびに今年こそ図書館が飛躍する年であることを期待し、私達の描く図書館像に一步でも前進するこ

とを希う。

静脩も三年目を迎える。今年も皆さんとともに歩んでいきたいと思っている。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 2, No 5 (通巻9号)1966年1月20日発行・発行人岩猿敏生  
発行所 京都大学附属図書館 京都市左京区吉田本町 電代表77-8111 (内線) 150-159